

2015 JUA/AUA Resident Program 参加報告

西尾 英紀 (名古屋市立大)

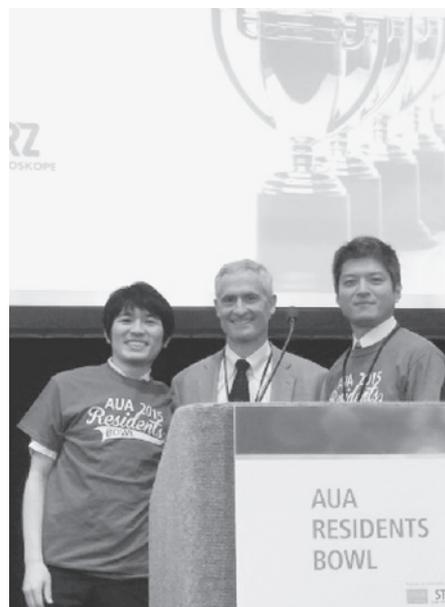
この度、JUA/AUA Resident Programとして、2015年5月14日から20日まで、ルイジアナ州ニューオーリンズで開催された第110回米国泌尿器科学会総会（2015 AUA annual meeting）に参加させて頂きました。本プログラムは2009年に始まり、日米の泌尿器科学会の交流事業の一環として、若手の泌尿器科医が国際学会に参加するチャンスを頂けるプログラムです。参加者は学会参加費・宿泊費のサポートを受け、レセプションや各種イベントへ参加することができます。このプログラムへ参加できることの期待に胸を膨らませて出国しました。

ニューオーリンズに着くと、AUA 運営担当の Gina Dorsey さん、Ellen Molino さんからの Resident Program のスケジュールについてのミーティングがありました。早朝の教育プログラム Instructional and Post-Graduate (IC/PG) Course へ出席するため、バスに乗って会場へ向かい“Common Problems in Pediatric Urology : What Every Urologist Should Know”などの講義に出席しました。

また通常のグランドレセプション（今回は、復活祭前に行われるパレードに使用される山車の制作現場や倉庫を見学できる施設、Mardi Gas World でした）の他、普段では参加することができないプレジデントレセプションにも参加することができ、日本の学会ではお声をかけづらい有名な先生方が話しかけて下さいました。また小児領域で世界的に有名な Craig Peters 先生ともお話しすることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

現地ではメンターとしてエモリー大学の Chad Ritenour 先生が、私たちの相談役をして下さいました。エモリー大学のレジデントの先生を交えた夕食会では米国の泌尿器科における若手の研修などについてお聞きすることが出来ました。また米国ではセレクションを受けないと泌尿器科になることができないということに驚きました。自分自身が諸先生方から指導をうけ、導かれたレールを進むというようなぬるま湯に浸かって時間を過ごしていることを感じ、大変刺激を受けました。

さらに江崎先生と一緒に South Central チームの一員



AUA Residents Bowl 大会後の壇上にて記念撮影。左から江崎太祐先生（慶應義塾大学）、司会の Gary J. Faerber 先生、筆者。

として、AUA Residents Bowl に参加しました。AUA Residents Bowl は、アメリカの各地区のレジデントチームが1問1答式の問題から症例提示による診断、治療に対する問題に対して医学知識の正確さを争う大会です。昨年に本学会に参加したときに、白熱した大会を観客として眺めていましたが、まさか自分が壇上に上がって参加するとは想像もできませんでした。残念ながら正解することができませんでしたが、最初で最後になるであろう貴重な体験でした。

このような貴重な経験ができたことは、この上ない光栄なことと存じます。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった JUA・AUA 両学会の関係の皆様方に深く感謝申し上げます。来年こそは再び AUA で発表できるよう、今まで以上に精進していこうと心に強く誓いました。